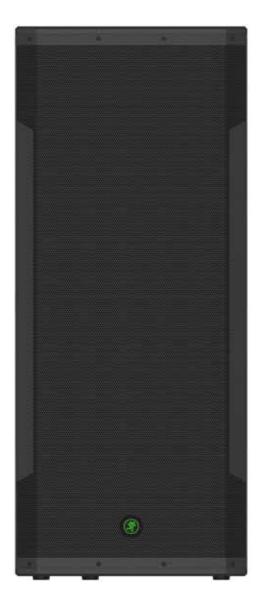
# SRM550 • SRM650 • SRM750

1600W POWERED LOUDSPEAKERS

日本語 オーナーズマニュアル









# 安全のために

この製品を設置、使用される前に必ずお読みください。

お使いになる方や周囲の方々への危害、財産への損害を防ぐため、下記の内容を守ってこの製品を安全にお使いく ださい。本書はいつでもご覧になれる場所に保存してください。

### 本書で使用する記号について



「必ず守ってください」という強制を 表しています。



「絶対にしないでください」という禁 止を表しています。

# 全様性 この記号は取扱を誤ると死亡や重傷、火災の 原因になる可能性がある内容に付いています。



#### 本書をすべて読むこと

この製品を設置、使用する前に必ず本書をす べてよく読み、本書の内容にしたがってくだ さい。



必ず実行

# 電源コードは仕様に適合した電源に接続する

適合しない電源に接続すると、本体の故障、 火災や感電の原因になる場合があります。



#### 確実に接地すること(アース)

感電を防止するため、確実にアースに接続 してください。



### 水分をかけたり湿気にさらさないこと

この製品の上に花瓶や飲み物など、液体が 入ったものを置かないでください。この製品 を直接水がかかる場所、または湿度の高い場 所に置かないでください。感電や火災、故障 の原因になります。



# 電源コードや接続ケーブルは安全に配置する

ケーブルをストーブの近くなど高温になる場 所に設置しないでください。また踏んだり物 に挟んだり、無理な配線を行うと、ケーブル が損傷して火災の原因になる場合がありま す。また足など体の一部を引っかけるような 場所に配置しないでください。負傷の原因に なる場合があります。



#### 本体を落下しないこと

本体の故障はもちろん、周囲の方が負傷する 原因になります。



### 電源コードを濡れた手でさわらないこと

感電の原因になります。



#### 長時間にわたって大音量で使用しないこと

この製品をミキサーなど他の機器と組み合わ せて、長時間にわたって大音量を再生しない でください。一時的または恒常的な難聴の原 因になる場合があります。



### 異臭や異常を感じたらただちに電源コードを 抜き、修理を依頼すること

正常に機能しない、異臭や異音がするなどの 場合は、修理をご依頼ください。



#### 移動するときはケーブルをすべて抜くこと

電源コードや接続ケーブルを接続したまま本 体を移動しないでください。ケーブルを傷め たり、周囲の方が転倒する原因になります。



### 電源コードや電源プラグに異常がある場合は 使用を中止し、修理を依頼すること

必ず宝行

電源コードやプラグの摩耗、接触不良等の場 合は本体を使用せず、修理をご依頼ください。



### 長時間使用しないときや落雷の危険があると きは電源コードを抜くこと

火災や感電、故障の原因になる場合がありま 必ず実行 す。



#### 本体内部に液体や物を入れないこと

火災や本体故障の原因になる場合がありま す。この場合は修理をご依頼ください。



# **登生** この記号は取扱を誤ると死亡や重傷、火災の 原因になる可能性がある内容に付いています。



#### 製品を分解したり改造しないこと

火災や感電、けが、故障の原因になります。 本体の内部にはお客様が操作する部分はあり ません。



#### 本体の換気用開口部をふさがないこと

本体内部の温度上昇を防ぐため、この製品の 表面には換気用開口部があります。この開口 部をふさぐと適切に換気ができず、内部の温 度が上昇して故障や火災、誤作動の原因にな る場合があります。



### スピーカースタンドは安全な場所で、規格に 適合するものを使用すること

必ず実行

この製品をスピーカースタンドに取り付けて 使用する場合は、安定した場所に設置してく ださい。使用するスピーカースタンドの耐荷 重、取付方法などの仕様を守ってお使いくだ さい。使用法を誤るとスピーカーが転倒し、 近くにいる方が死亡または負傷する原因にな る場合があります。



# スピーカーを吊り下げるときにハンドルを利用しないこと

製品が落下して、近くにいる方が死亡または 負傷する原因になる場合があります。スピー カーを設置する場合は必ず本体内蔵のリギン グポイントをお使いください。



# 本体を高い場所や頭上に設置する場合は専門の技術者に工事を依頼すること

必ず実行

足場が不安定な高所作業、人の頭上への設置 は、死亡や負傷、製品の損傷などの危険が伴います。専門の設備工事業者にご依頼ください。



# 他の機器と接続するときはあらかじめこの製品の電源を切っておくこと

必ず実行

接続時に大音量のノイズを発生し、聴覚異常 やスピーカー破損の原因になる場合があります。



# 本体の内部や周囲で可燃性ガスのスプレーを 使用しないこと

禁止

ガスが滞留して引火による火災などの原因になります。



# 電源コードは必ずこの製品に付属のものを使

必ず実行

適合しないものを使用すると通電中に電源 コードが加熱し、火災の原因になる場合があ ります。



#### 電源プラグに手が届くよう設置すること

この製品の背面には電源を遮断する電源プラ グが付いています。この電源プラグに簡単に

手が届くよう設置してください。

# **注意** この記号は取扱を誤ると負傷、機器の損傷や物的損害の原因になる可能性がある内容に付いています。



#### 本体は安定した場所に設置すること

本体を不安定な場所に設置すると、落下などによる故障の原因になります。



#### 高温になる場所に設置しないこと

直射日光が当たる場所、熱を発するものの近くに置かないでください。製品の上にろうそくなど裸火を置かないでください。



### ボタンやスイッチ、入出力端子に無理な力を 加えないこと

本体の故障やお使いになる方がけがをする原 因になる場合があります。



### スピーカーは定格範囲内で使用すること

定格範囲を超えるレベルや周波数を入力する と、スピーカーが故障する原因になります。 特に歪みにはご注意ください。

# 修理

- 日本仕様のMackie 製品の修理は、音響特機株式会社または提携サービスセンターで行っています。 Mackie 製品の修理やメンテナンスが必要な場合は、次の手順に従ってください。
- 本書でご紹介しているトラブルシューティングの内容をチェックして下さい。
- テクニカルサポートに電話でまたは、support\_mackie@otk.co.jpにメールで「メンテナンス申込書」を請求してください。「メンテナンス申込書」に必要事項をご記入の上、04-2944-3812~FAXしてください。折り返しRA番号と送付先のサービスセンターが記載された修理受付票をFAXで返送いたします。RA番号はサービスセンターへ送付される前に必ず取得してください。
- オーナーズマニュアルと電源コードは同梱しないでください。修理には必要がありません。
- 本体を梱包材とともに製品パッケージに入れて、サービスセンターへ送付してください。当社では輸送上のダメージを保証することができません。
- 必ず、RA番号が記載された修理受付票のコピーを同梱してください。また送り状の通信欄にも、RA番号と商品名、製造番号を記載してください。RA番号のない修理品は受付することができません。
- 保証内修理を行う場合には、販売店印とご購入日が明記された 保証書が必要です。くわしくは、次項の保証規定をご参照くださ い。

# 保証

- 本機の保証はご購入後1年間となっております。
- 正常な使用状態で本体に不具合が生じた場合、正規のサービス担当者が無償で修理を行います。ただし、下記の場合は保証規定から除外されておりますので、あらかじめご了承ください。
- お客様による輸送、移動中の落下、衝撃など、お客様のお取り扱いが適正ではなかったために故障が生じた場合
- お客様のご使用上の誤り、不適正な改造、弊社の認可のない改造 及び修理が行われている場合
- 火災、煙害、ガス害、地震、落雷、風水害などの天変地異、あるい は異常電圧などの外部要因によって故障が生じた場合
- 本機に接続している機器及び消耗品に起因する故障、損傷
- 正常な状態でのご使用中でも、自然消耗、摩耗、劣化によって故 障あるいは損傷が生じた場合
- 日本国外でご使用中の故障、損傷

# 技術的なご質問・修理窓口

### サポートセンター

〒359-0023 埼玉県所沢市東所沢2-37-1

㈱サヤマトラフィック 敷地内

**2** 04-2944-3811

04-2944-3812

support\_mackie@otk.co.jp

営業時間 月曜日~金曜日 9:00~17:30

休業日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始・夏期

### 営業窓口

東京 東京都中央区日本橋小伝馬町10-1

☎ 03-3639-7800 (代表)

03-3639-7801

大阪 大阪府大阪市淀川区宮原2-14-4

**1** 06-6152-7751 **1** 06-6152-7752

名古屋 名古屋市東区泉1-23-30

①52-950-3324 ② 052-950-3325

福岡 福岡市南区大橋4-16-18-201

① 092-554-6066 ( 092-554-6064

営業時間 月曜日~金曜日 9:00~17:30 休業日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始・夏期

ご質問は電子メールでも承ります。

sales\_mackie@otk.co.jp

### **Contents**

機能1
はじめに・・・・・・・2
このマニュアルの使い方2
クイックスタート2
その他の注意・・・・・・・2
接続例3
SRMラウドスピーカー:リアパネルの機能7
1. 電源コネクター7
2. Powerスイッチ7
3. XLR、1/4インチComboインプット ······7
4. ゲイン ノブ8
5. RCA インプット[チャンネル2 のみ] ·····8
6. Thru アウトプット ・・・・・・9
7. Ch 1 / Mix スイッチ [スルー アウトプット] ······9
8. Speaker Mode ·····9
9. Feedback desTROYer: ·····9
10. Main Logo スイッチ / Limit LED·······10
11. ボーナスノブ、ボタン、LED ······10
12. Rock 'n Roll 10
Smart Protect
リミッター11
過振幅保護
温度保護11
/血/交体设 11
AC電源 ·······11
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
設置について·······12
ルームアコースティック
リギング 14
リギングの設計
リギングハードウェアとアクセサリー14
リギングに関する注意14
リギングに関する大切なお知らせ
H-63A H- 1671-0167
付録A:サービスについて16
付録B コネクター ····································
SRM550 スピーカー寸法 & 周波数特性 ·······20
SRM650 スピーカー寸法 & 周波数特性 ···············21
SRM750 スピーカー寸法 & 周波数特性 ··············22
SRM ラウドスピーカー ブロックダイヤグラム・・・・・・・・23

# 機能

- カスタムスピーカードライバーユニット搭載の 1600W パワード システムはフルバンドのライブイベントにも十分なパワーを提供
  - 12 インチ高出力ウーファー / 1.4 インチ チタンドーム高域コンプレッションドライバー [SRM550]
  - 15 インチ高出力ウーファー / 1.4 インチ チタンドーム高域コンプレッションドライバー [SRM650]
  - 2×15 インチ高出力ウーファー / 1.4 インチ チタンドーム高 域コンプレッションドライバー [SRM750]
- 内部補強が施された"戦車級に頑丈な"木製エンクロージャー を採用し過酷なツアーリングにも対応
  - 18 ゲージの強固なスチールグリル、汚れに強く美しいブラックフィニッシュキャビネット
  - 低域を最大限に拡張するフロントポート
- 比類なき明瞭度を実現するプロフェッショナルクオリティー高解像 度オーディオプロセッシング
- 業務用スピーカーのトップブランド EAW® による音響補正特許 技術
- 高精度デジタルクロスオーバー
- ユニット間のタイムアライメントと位相補正
- 用途に応じたスピーカーモードをワンタッチで切替可能 (PA,DJ, Monitor,Soloist,Fill,Speech)
- 不快なフィードバックをワンタッチで自動検知、除去してくれるフィードバックデストロイヤー
- デュアル Wide-Z ™入力端子を装備した 2ch ミキサー搭載
  - ゲインノブをひとひねりするだけでマイクからギターまで入力まで 幅広く調整可能
  - BGM ソース入力に便利なステレオ RCA インプット
  - シンガーソングライターにも最適、ミキサーいらずの簡単セット アップ!
- 過大入力時に大切な機材を保護してくれる高性能 Smart Protect ™ DSP
- M10 アイボルトを使用して吊り下げ可能
- ステージ上で理想的なカバーエリアを実現する 60°のスピーカーアングルとステージに合わせてスピーカーボイシングモード [SRM550 / SRM650]



Like us



Follow us



Watch our dang videos

# はじめに

SRM1600W 高解像度パワードラウドスピーカーは、定評のある SRM シリーズの堅牢性、パワー、クリアな音質と豊かな低域レスポン スをさらに高い次元へと進化させたモデルです。カスタム設計トランス デューサーを搭載したプロ仕様木製エンクロージャーは内部が支柱で 補強され、戦車級に頑丈な強度を実現しています。

SRM スピーカーは独自の音響補正特許技術を駆使した専用 DSP を含む High Difinition Audio Processing ™を採用し極めて高い解像度を誇るサウンドを実現。 さらに用途に応じてシステムを最適化できるスピーカーモード、驚くほど正確なフィードバックデストロイヤー機能も搭載しています。

どんな入力ソースも簡単に接続可能な Wide-Z TM入力端子を装備した 2 チャンネルミキサーを内蔵。ポータブルミキサーに求められる高い信頼性とパワーを実現。どんな場面でも設定に戸惑うことなくすぐにお使いいただけます。

### このマニュアルの使い方

このあとに続くクイックスタートガイドでは本機を設定するための手順が説明されています。接続例では典型的な使用例を紹介し、残りのページでSRM550、SRM650、SRM750ラウドスピーカーの詳しい使い方についてご説明します。



このアイコンはこのミキサーで特に重要、あるいは独自の情報に付いています。よく読み、覚えておくと良いでしょう。

# クイックスタート

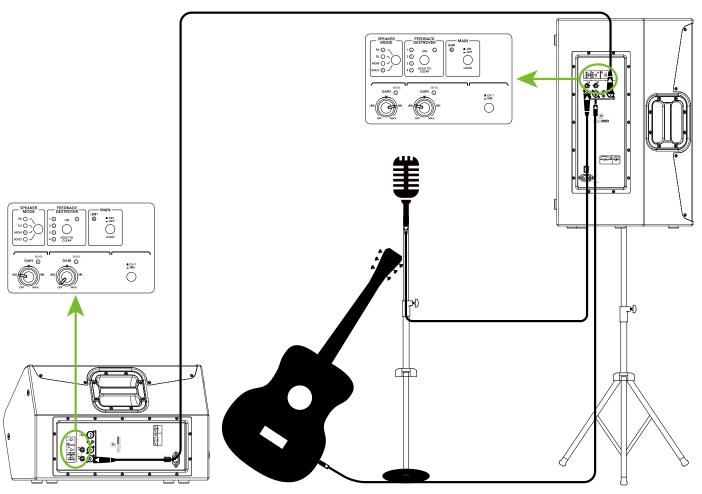
下記の手順に従うと、スピーカーを素早く設定できます。

- 1. ケーブルを接続する前に全ての機器の電源スイッチをオフにし、マスターボリュームやレベル、ゲインコントロールの値も最小の位置にあることを確認してください。
- 2. ミキサー(またはその他の音源)からのライン出力をSRMスピーカーのリアパネルのXLRインプットに接続します。
- 3. スピーカーのゲインノブをLine(またはその付近)にセットします。
- 4. 付属の電源コードをリアパネルのIECコネクターに差し込み、もう一方の端を電源コンセントに接続してください。このとき、必ず電源ソケットの下部に表示された仕様の電源に接続してください
- 5. ミキサー(または他の音源)の電源を入れます。
- 6. スピーカーの電源を入れます。
- 7. 音源を再生させて、音が聞こえはじめるくらいまでミキサーのメイン L/Rフェーダーを上げます。
- 8. ミキサーのマスターボリュームを聞きやすい音量になるように調整 します。
- 9.残りのページをよく読み、スピーカーモードのセッティングやフィードバックデストロイヤーの設定方法を確認してください。

### その他の注意

- 長時間、大音量で音楽を聞くと難聴の原因となる恐れがあります。
- 一般的にミキサー(または他の音源)の電源を最初に入れ、次にサブウーファー、最後にスピーカーの電源を入れます。電源を切る時はそれとは逆にスピーカーの電源を最初に落とし、次にサブウーファー、最後にスピーカーの電源を入れます。こうすることで電源を入れるまたは切る時にノイズが発生しにくくなります。
- 外箱や同梱物は保管してください。将来必要になる場合があるかも しれません。ペットの遊び道具になってしまうかもしれませんが、その 時は一緒に遊んであげてください。
- ・ 保証書は大切に保管してください。

# 接続例



SRM スピーカーはカフェなどでの弾き語りにも最適です。お気に入りのギターとマイク、SRM スピーカーとケーブル、そして電源コードさえ用意すればライブが行えます。

この接続例では、ダイナミックマイクが SRM650 スピーカーのインプットチャンネル 1 に接続されています。この際、ゲインノブは" Mic" にセットしてください。マイクレベルに対しても十分なゲインが得られます。マイクロフォン以外がチャンネル入力に接続されている場合はゲインノブは" mic" 以外にセットしてください。[" Line" に設定すると安心です]ここからは 8 ページの Gain ノブの説明に従ってゲインを調整します。

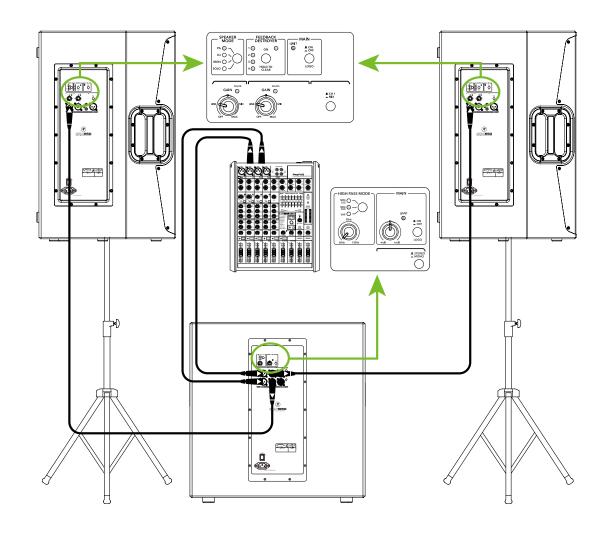
次にギターを手にとり、マイクロフォンをインプットチャンネル 2 に直接接続します。エフェクターを間に挟む場合はギターをエフェクターに、エフェクターのアウトをインプットチャンネル 2 に接続します。チャンネル 2 のゲインノブは "Line" にセットします。

モニター用にもう1台の SRM550 または SRM660 を追加できます。接続はとても簡単です。メインの SRM スピーカーの THRU ジャックをモニター用 SRM のインプットチャンネル 1 と接続します。 このとき、メインの SRM スピーカーの Ch1 / Mix スイッチが押し込まれた状態であることを確認してください。 これでボーカルとギターのミックス音をモニターできます。

出力する音に対してはスピーカーモードで最適なモードを選択すると良いでしょう。(詳細は9ページ参照)このセットアップではメインの SRM650 に対しては PA モードが適しているでしょう。 Soloist モードも試す価値はあります。 このモードは低域を適度にカットし、高域にきらびやかさを加えます。 モニター用 SRM550 ではモニターモードを選択してください。 仕上げに SRM のフィードバックデストロイヤー機能を駆使して事前にフィードバックを抑制したり、演奏中のハウリングを回避することもできます。

# 小規模カフェ

# 接続例続き…



この接続例では、SRM1850サブウーファーとSRM650を使用してサウンドシステムを構築しています。小規模クラブに厚みのあるサウンドを提供する理想的なセットアップです。

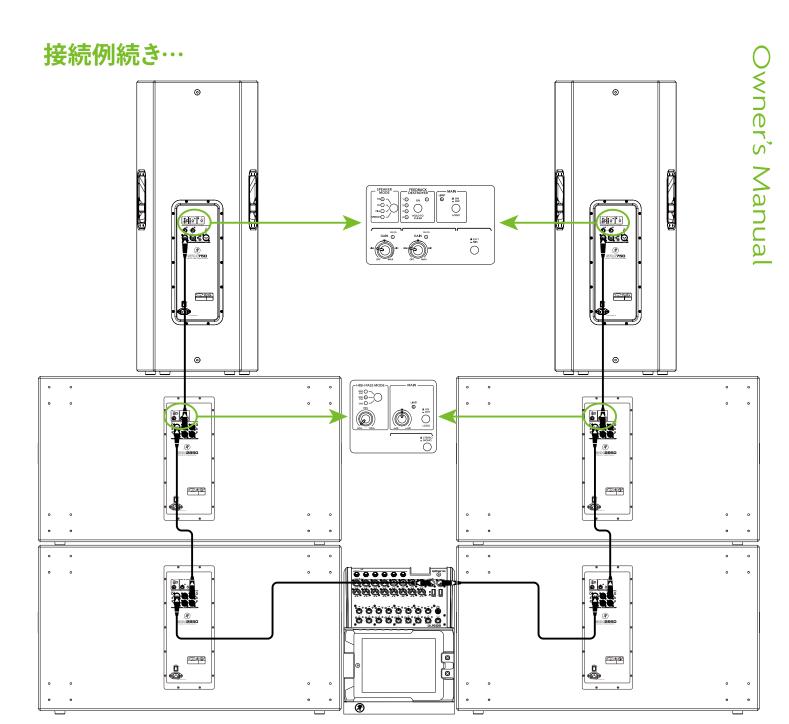
ここでは、ProFX8ミキサーのL/R出力をSRM1850サブウーファーのインプットAとBに直接接続しています。

SRM1850サブウーファーのチャンネルA / BのHigh PassアウトはそれぞれSRM650のインプット1に接続されています。SRM650の ゲインノブは必ず"Line"に設定してください。そうしなけばスピーカーを飛ばしてしまう場合があります。SRM1850のHigh PassモードではSRM650を選択するとスピーカーシステムをマッチングできます。

SRMスピーカーはステージモニターとしても最適です。Auxからの出力をモニター用として配置したそれぞれのSRMスピーカーのインプットチャンネル1へ接続してください。

出力する音に対してはスピーカーモードで任意のモードを選択できます。(詳細は9ページ参照)このようなライブサウンド向けセットアップでは PA モードがお勧めです。 SRM をモニタースピーカーとして使用する場合は Monitor を選択します。

## 小規模クラブ



SRMスピーカーの圧倒的なパワーを体感できる接続例をご紹介します。SRM2850サブウーファーのペア、合計4台のサブを会場の各サイドに設置します。サブウーファーの上にはSRM750ラウドスピーカーを配置し、トップサブと接続します。ディープで迫力のある低域と輪郭のはっきりとしたクリアな高域を求める大規模なPA向きのセットアップです。

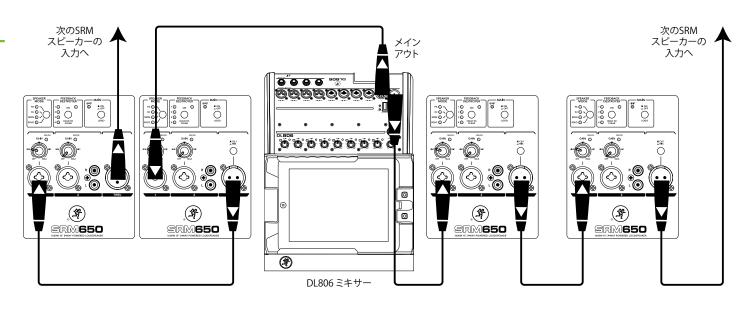
DL1608のステレオL/R出力をボトムのSRM2850サブウーファーのチャンネルAインプットに接続します。ボトムのSRM2850のサブウーファーのFull Rangeアウトは、トップのSRM2850サブウーファーのチャンネル1に直接接続します。

次にトップのSRM2850サブウーファーのチャンネル A High PassアウトはSRM750のチャンネル1インプットに直接接続します。このとき、スピーカーを破損してしゲインノブは必ずLineにセットしてください。SRM2850のHigh PassモードはSRM750を選択してください。

SRM750はトライポッドを使用してポールマウントできますが、SRM2850サブウーファーの上に配置する場合は、必ずスタックしてご使用ください。

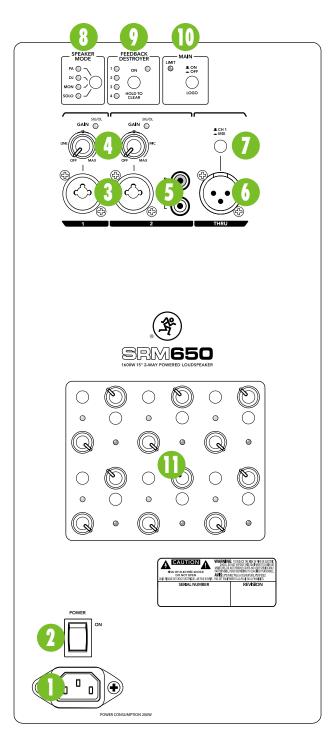
### 大規模PAシステム

# 接続例続き…



SRMスピーカーは"THRU"と記載されたXLRオスコネクターを介してデイジーチェーン接続できます。シグナルソース(ミキサーのアウトプットなど)をインプットジャックに挿し込み、SRMスピーカーのTHRUジャックを次のSRMスピーカーのインプットジャックに挿し込みます。 さらにスピーカーを追加する場合は、同様の手順を繰り返すことで、複数のSRMスピーカーをデイジーチェーン接続できます。上の接続図をご覧ください。

### 複数のSRMスピーカーのデイジーチェーン接続



#### 2. Powerスイッチ

このスイッチの上側を押し込むとスピーカーがオンになり、フロンとパネルの「Running Man」のロゴが誇らしげに点灯します…適切に電源が供給され、メインロゴスイッチ [10] がオフになっていれば少なくとも点灯はします。

このスイッチの下側を押し込むとスピーカーはオフになります。



一般的にミキサー(またはシグナルソース)の電源を最初に入れ、最後にスピーカーの電源を入れます。電源を切る時はそれとは逆に、スピーカーの電源を最初に落としま

す。こうすることで電源をオンノオフにする時にのノイズを抑制できます。

### 3. XLR、1/4インチComboインプット

このWide-Z™入力端子はバランス/アンバランスXLRコネクターと1/4インチ・コネクターを差し込むことができるコンボジャックです。Wide-Z™入力端子は広いゲインレンジを確保し、楽器レベルから高出力マイクシグナルまで幅広く対応します。XLR、TRSまたはTSコネクターをチャンネルに接続してゲインを調整してください。



機器を接続するは必ずゲインノブ[4]の位置を確認してください。



警告! アンプの出力を直接スピーカーのインプットに接続しないでください。従わない場合は、スピーカーの入力回路が故障する場合があります。

XLRインプットコネクターは、AES (Audio Engineering Society) の 規格に従って下記のようにワイヤリングされています。

### バランスXLR インプットコネクター

1番ピン=シールドまたはグランド

2番ピン=陽極(+またはホット)

3番ピン=陰極 (-またはコールド)

## 1. 電源コネクター

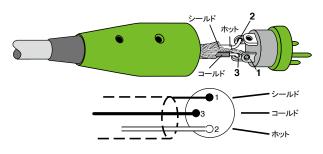
標準3ピンのIEC電源コネクターの差し込むソケットです。このソケットに付属の電源コードをしっかり差し込み、もう一方の端を電源コンセントに接続してください。



必ず電源ソケットの下部 に表示された仕様の電源に接続してください



グランドピンは危険ですので絶対に取り外さないでください

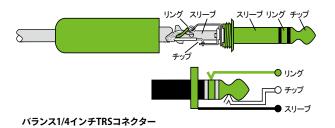


バランスXLRインプットコネクター

バランスラインのシグナルをインプットに接続する場合は、1/4 イン チ チップ・リング - スリーブ (TRS) プラグを使用します。この 3 接点端 子はステレオ 1/4 インチ、バランスフォンジャック、プラグなどのタイプ があります。TRS ジャックやプラグはバランスシグナルを扱うとき、ま たはステレオヘッドフォン用に使用されます。ケーブルの配線は、AES (Audio Engineering Society) の規格に従って下記のようにワイヤリン グされています。

#### バランス1/4" TRS コネクター

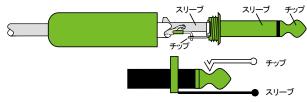
スリーブ=シールドまたはグランド チップ=陽極 (+またはホット) リング=陰極 (-またはコールド)



アンバランスラインのシグナルをインプットに接続する場合は、1/4イ ンチモノ(TS)フォンプラグを使用します。ケーブルの配線は、AES (Audio Engineering Society) の規格に従って下記のようにワイヤリン グされています。

### アンバランス1/4" TS コネクター

スリーブ=シールドまたはグランド チップ=陽極 (+またはホット)



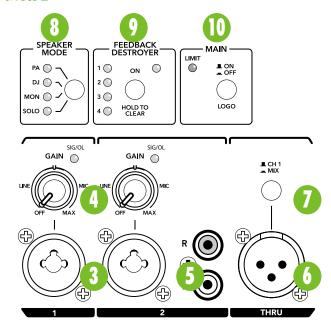
アンバランス1/4インチTSフォーンコネクター

コネクターについての詳細は 17 ページの付録 B:コネクターをご覧く ださい。

### 4. ゲイン ノブ

ゲインノブを使用してマイク、ライン、RCA インプットの入力感度を調 整します。このノブを使用して外部から入ってくる信号を各チャンネルで 扱う適切な内部操作レベルに調整します。

ゲインレンジはノブを下げきると (off)  $-\infty$  dB、上げきると (Max)50B です。 信号が入力されたら SIG / OL LED が緑色に点灯します。 この LED はチャンネルに -20dBu 以上のシグナルが入力されている 間は点灯し続けます。



シグナルレベルが SRM スピーカーのアンプがクリップするポイントま で近づくと LED は赤く点灯します。 LED がたまに点滅するのは問題と はなりません。音の立ち上がりのピークがアンプの最大出力に達してい る時も赤く点滅します。これはスピーカーの性能をフルに活かしている ということです。



ミキサーのアウトプットをスピーカーのインプットに接続して いる場合は、ゲインノブを 10 時の位置 (LINE) に合わせる と最適なレベルに設定できます。

### 5. RCA インプット[チャンネル2 のみ]

このステレオアンバランス RCA インプットには、CD プレーヤーや iPod®、その他のラインレベルの機器を接続します。 RCA ジャックは アンバランスの信号を標準的な Hi-fi ケーブルを使用して受け入れます。

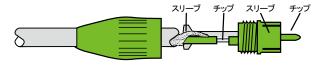


警告! アンプの出力を直接スピーカーのインプットに接続し ないでください。従わない場合は、スピーカーの入力回路 が故障する場合があります。

ケーブルの配線は、AES (Audio Engineering Society) の規格に 従って下記のようにワイヤリングされています。

#### アンバランスRCA コネクター

スリーブ=シールドまたはグランド チップ=陽極 (+またはホット)



アンバランスRCAコネクター

コネクターについての詳細は 17 ページの付録 B:コネクターをご覧く ださい。

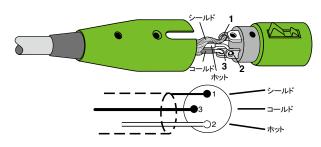
### 6. Thru アウトプット

XLR タイプのオスコネクターで、メインインプットジャック、またはインプットチャンネル 1、2のミックスされた信号と同じ信号を生成します。 同じ信号ソースで複数のアクティブスピーカーをディージーチェーン接続するとき、このコネクターを使ってください。

XLRアウトプットコネクターは、AES (Audio Engineering Society) の規格に従って下記のようにワイヤリングされています。

### バランス XLR インプットコネクター

1番ピン=シールドまたはグランド 2番ピン=陽極(+またはホット) 3番ピン=陰極-またはコールド)



バランスXLRアウトプットコネクター

デイジーチェーン接続についての詳細は6ページをご覧ください。

コネクターについての詳細は 17 ページの付録 B: コネクターをご覧ください。

### 7. Ch 1 / Mix スイッチ [スルー アウトプット]

このスイッチを操作して Thru アウトから取り出す信号の内容を選択します。スイッチが押し込まれていない [スイッチアウト-ch1] 場合は、チャンネル 1 の信号 (プリ・ゲイン) のみが Thru アウトから次のスピーカーへ送られます。 スイッチが押し込まれると [スイッチイン・Mix]、チャンネル 1 と 2 のミックスされた信号が次のスピーカーへ送られます。

### 8. Speaker Mode

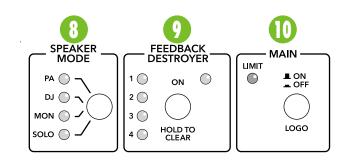
このボタンを操作して使用環境にあわせてスピーカーを最適化できるスピーカーモードを変更できます。スピーカーモードは 4 つのモードがあります。お使いのスピーカーが選択されて LED が点灯するまで繰り返しスピーカーモードを押してください。詳細は 20 ~ 22 ページの周波数特性グラフを参照してください。

**PA スピーカーモード** - このモードはフルレンジですが、特に声の成分が多く存在する中域を際立たせます。一般的な **PA** の場合は、まずこのモードを選択するとよいでしょう。

DJ スピーカーモード - このモードは低域と高域を強調し中域が少し抑えられます。 音楽再生に適したモードです。

MON(itor) スピーカーモード - このモードは低域のロールオフ、および 2kHz 周辺をおさえることでフィードバッックを発生させることなく最大レベルで再生できます。モニター用途に最適です。

SOLO(ist) スピーカーモード - このモードは不要な低域を取り除き、中高域にきらびやかさを加えたサウンドを提供します。このシンガーソングライターのステージ用セットアップには最適です。



FILL スピーカーモード - このモードは低域をなだらかにロールオフします。ステージ上で最低限必要な低域を維持しながらも豊かな中高域を再生します。全帯域にわたって優れた周波数レスポンスを実現します。このプラグ・アンド・プレイモードは、ステージでのサイドフィルモニター、またはサブウーファーと組み合わせてメインスピーカーとしてSRM750を使用するときに最適なモードです。

SPEECH スピーカーモード・このモードは不要な低域ノイズを排除しながらボイスに重要な成分を含む中高域をブーストします。このプラグ・アンド・プレイモードは大きな会場でスピーチをはっきりと聞かせたい場合に効果的なモードです。

#### 9. Feedback desTROYer:

このマルチバンドフィードバックデストロイヤーは不快なフィードバックを検知すると最大で4つのノッチフォルターが自動的に作動し、フィードバックを抑制します。このため、フィードバックを発生させることなく最大レベルで再生できます。専属のエンジニアを持たない演奏者にとっては非常に有用な機能となるでしょう。

本機に搭載された高性能フィードバック デストロイヤーは最大で 4 つの 1/16th オクターブまでの非常に細かいソッチフォルターが即座に作動しフィードバックを検知、抑制します。この機能のおかげで演奏者は安心して演奏に集中できます。さらに Smart Protect ™ DSP が突発的な過大入力からシステムを保護してくれるので大切な機材を無駄にすることもありません。

### 10. Main Logo スイッチ / Limit LED

SRM スピーカー前面のランニングマンのロゴはこのスイッチが押し込まれていない[ON] 場合に点灯します。ロゴを点灯させたくない場合は、このスイッチを押してください [OFF]。

SRM ラウドスピーカーの内蔵リミッターは、クリップやオーバーロードからアンプを保護してくれます。リミッターが作動した時は LIMIT LED が黄色に点灯します。 LED がたまに点灯するのは問題とはなりませんが、頻繁に点滅したり、常時点灯している場合は LED がたまに点灯するくらいまでゲインノブ [4] を下げてください。



過度のリミッティングはオーバーヒートの原因となります。保護回路が働きスピーカーの動作を中断する場合があります。詳しくは**11**ページの温度保護をご覧ください。

### 11. ボーナスノブ、ボタン、LED

おまけの機能がついていれば最高ですよね。たくさんのノブやボタン、他にも何かついていれば言うことなしですが…SRM ラウドスピーカーのリアパネルには追加のノブやボタン、LED がついています。下記に紹介するのは、それらの機能のほんの一例です。

ビールの注ぎ口 - ライブにはやっぱりビールの 1 杯や 2 杯位は必要ですよね。このモーメンタリースイッチをグラスのビールがいっぱいになるまで押してください。

**お酒の注ぎ口**-ビール愛好者ばかりではないですよね。他のお酒を飲みたい方はこちらからどうぞ。

モデム - 年配の方々はモデムのあのサウンドを覚えていらっしゃるでしょうか?このスイッチを 1 回押すと、モデムの音がスピーカーから聞こえます。ドットマトリクス プリンターの嬉しそうなサウンドの方が聞きたいという方はこのスイッチを 2 回押してください。

**お気に入りのバンド** - お気に入りのバンドがスクリーンに表示されるまでこのスイッチを繰り返し押してください。 どんな曲もまるであなたのお気に入りのバンドが演奏しているかのようなサウンドで再生されます。

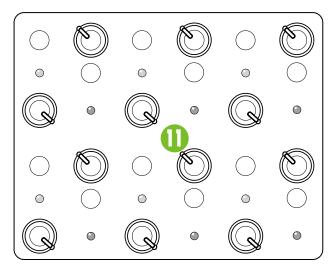
スポーツ - 音楽とスポーツでは求められるサウンドは完全に異なるものです。 スポーツ PA でこのスピーカーを使用する時は、このスイッチをスポーツに設定してください。

スタジアム - 観客がバーテンダーと接客と恋人だけ。そんなときこそこのスイッチの出番です。スタジアムスイッチを押すと熱狂的なファンで埋め尽くされたワイドなスタジアムのようなサウンドを演出します。 クリケットのワイドグランドではないですからね。

これだけの機能を追加しても、熱狂的な Mackie のエンジニア達はまだ何か追加できるものはないか探求し続けています。新しいソブ、ボタン、そして LED はさらに追加されこのマニュアルも改訂されていくことでしょう。その時まで新しい発見を楽しみに待ちましょう!

※実際には存在しない仮想のコントロールです。





#### 12. Rock 'n Roll

おめでとうございます。機能についての学習はこれで完了です。 SRM ラウドスピーカーの機能について理解できましたか? 理解できたらロックンロールの準備は完了です。次のセクション に進んでください。もしまだ十分に理解できていないと思う方は もう一度 7 ページから読み直してください。次のページからは SRM ラウドスピーカーの設置方法、極性、Smart Protect、そ の他技術的情報について詳しくみていきましょう。

## **Smart Protect**

SRM スピーカーには予期せぬ過大入力からスピーカーとアンプほ 保護するように設計された高性能 DSP が搭載されています。



保護回路は常識的な使用を前提としてスピーカーを保護するよう設計されています。本書の警告 (出力が極端に歪んでいる場合など) を無視して使い続けると、アンプがクリッピ

ングポイントを過ぎてオーバードライブするため、スピーカーが故障する場合があります。こうした故障は保証対象外です。十分ご注意ください。

### リミッター

ユニットには独自のコンプレッション回路があり、瞬間的に通過する ピークで故障しないよう保護されています。このコンプレッサーは音に 色づけをしないため、通常動作中は気になることはありません。

### 過振幅保護

SRM550とSRM650では18dB/octのHigh Passフィルターが、そしてSRM750では24dB/octバターワースハイパスフィルターが低域アンプの動作範囲のすぐ下の帯域で作用し、アンプが超低域の増幅を防ぎます。過剰な超低域エネルギーは、オーバー・エクスカーションとも呼ばれるクリップの物理的な現象と同じ「底を打つ状態」で、振幅が大きくなりすぎるためにウーファーを破損する原因になることがあります。

### 温度保護

どんなアンプでも熱を発生します。 SRM スピーカーは電気的にも温度の面でも効率的に設計されています。

予期せぬ理由でアンプがオーバーヒートすると、内蔵の温度スイッチが作動して信号をミュートします。

アンプが安全な温度まで冷却されると、温度スイッチがリセットされて 通常動作に戻ります。

温度スイッチが作動した場合は、アンプのオーバーヒートを防ぐためにミキサー(またはサブウーファーの背面パネル)のレベルコントロールをすこしだけ絞ってくみてださい。

直射日光やステージの照明もオーバーヒートの原因になるので避けるようにしてください。

## AC電源

SRMスピーカーを接続するコンセントが、ご使用のモデルに適した電圧を提供することを確認してください。必要電圧を少し下回っても、スピーカーは作動し続けますがフルパワーを発揮することはできません。

接続された全ての機器に対して必要な電力を確保できているかを確認してください。

堅実で強力なAC電源の供給が望まれます。アンプはACラインに高い電力を要求します。供給される電力が多いほどスピーカーの音量は大きくなり、ピーク出力が増大してクリーンで迫力のあるベースサウンドが得られます。ベースサウンドが迫力にかける場合、原因の多くはアンプに供給される電力不足が考えられます。



電源コードのグランドピンや SRM スピーカーの部品は 絶対に取り除いたり取り外したりはしないでください。大 変危険です。

# お手入れとメンテナンス

SRMスピーカーは、下記のガイドラインに従って使用されている限り、長年にわたって信頼性の高いサービスを提供します。

- このスピーカーを霧にさらさないでください。野外で使用する場合は、雨がかからないようカバーしてください。
- 極端に温度が低い場所に置かないでください。気温が低い場所でこのスピーカーを使用しなければならない場合は、高出力で動作させる前に、低いレベルの信号を送って、15分ほどボイスコイルを暖めてください。
- キャビネットのお手入れには、乾いた清潔な布だけをお使いください。お手入れの前には必ず本体の電源を切ってください。キャビネットの開口部から霧を内部に侵入させないよう、特にドライバーが入っている部分には注意してください。

# 設置について



警告: 本機の設置は専門の技術者が行ってください。不適切な設置は機器の破損や人体への障害や死亡の原因になる場合があります。建物や人体への危険を避けるため

に、スピーカーは安定した場所にしっかりと固定してください。

SRM550 / 660 はメイン PA またはモニターとしてフロアやステージに、SRM750 はサイドフィルとしての使用も想定として設計されています。 設置面(床など)がスピーカーの総重量を支える事ができる機械的構造であるかを確認してください。

SRM スピーカーはキャビネット底面のソケットを使ってポールマウントも可能です。 その際、ポールがスピーカーの重量を支えることが可能である事を必ず確認してください。

SRM サブウーファーと使用する場合は、他のどのポールよりも拡張性に優れた SPM200 を特に推奨します。



SRM750 は SPM200 を使用してのポールマウントに対応していません。 SRM750 はポールマウントせず、サブウーファーの上にストラップを使用してスタックしてください。 従わ

ない場合は、機器の破損や人体への重大な障害、死亡事故に至る 可能性があります。 スピーカーは本機に組み込まれた3カ所のフライポイントを使用して 吊り下げ設置にも対応します。フライポイントについての詳細は16ページのリギング-PA-A2アイボルトについてを参照してください。

SRM スピーカーは水平にアレイを組めるようには設計されていません。2つのスピーカーを並べて配置しなければならない場合は、スピーカー間のスプレーアングル(キャビネット間の開き角度)と逆位相によって打ち消される周波数の関係を十分に理解しておく必要があります。

2つのキャビネットをエンクロージャー背面の角度のある面が平行になるように設置するとスプレーアングルは90°となり、それぞれのスピーカーがもつ90°の水平放射角度とマッチします。これにより2つのスピーカー間の干渉は最低限に抑える事ができます。しかし、トータルで180°となるスピーカーカバレージは用途によっては広すぎる場合もあるでしょう。スピーカーに近いエリアでは、センターに定位する中域と高域の周波数が減衰することもあります。

スプレーアングルを狭めるとトータル水平カバレージは狭まりますが、 それと同時に 2 つのスピーカーが重複してカバーするエリアが生じ、コムフォルターの原因となる場合があります。スプレーアングルは狭いほど軸上のエネルギーを増加しますが、同時にコムフィルターの影響を多く受けてしまう副作用があります。

繰り返します。試行錯誤と経験を重ねることで最適な妥協点を見つける事ができるかもしれませんが、そうでもない限り本機を水平配置して使用することは避けるべきです。

### ルームアコースティック

SRM スピーカーは、どのような環境でも最高のサウンドを提供するよう設計されています。

ルームアコースティックは、サウンドシステム全体のパフォーマンスに 大きな影響を及ぼします。ルームアコースティックに付随する問題を最 小限に抑える為の設置に関するヒントをいくつか紹介します。

- スピーカーを部屋の角に置かないようにしましょう。部屋の角に置くと低域出力が増強され、サウンドがぼやけたり不明瞭になります。
- スピーカーを壁際に置かないようにしましょう。 角に置いたときほどではありませんが、これも低域出力が増強される原因になります。 しかしながら低域出力を補強したいときには良い方法です。
- 空洞のステージ上にスピーカーを置かないようにしましょう。空洞のステージは特定の周波数で共振し、そのスペースの周波数特性にピークやディップを作り出します。スピーカーは丈夫な台の上に置くか、スピーカースタンドにマウントしてください。
- 高域ドライバーが観客の耳から 30cm 以上高くなるようにスピーカーを設置してください(立ち上がって通路で踊っている人たちのために余裕を持たせてください)。高域は方向性が強く、低域に比べてかなり吸音されやすい傾向にあります。客席からスピーカーがまっすぐ見えるように設置することで、音響システムの全体的な明るさや明瞭度を上げてください。

- ・体育館や劇場など反射の多い空間は、音響システムの明瞭度にとって悪夢のようなものです。堅い床や天井、床面からの複数の反射が、サウンドを台無しにしてしまうのです。状況にもよりますが、反射を最小限に抑えるための対策をいくつか講じることができるでしょう。床にカーペットを敷く、大きなガラス窓に厚手のカーテンを掛ける、壁面にタペストリーを下げるなどして吸音します。しかしたいていはこうした対策は不可能だったり実用的ではないでしょう。そんなときにできることはないのでしょうか。音響システムの音量を大きくすると、反射音も大きくなるため一般的には意味がありません。最善策は、客席をできるだけ直接音でカバーすることです。しかしスピーカーから離れるほど、反射音が目立ってくるでしょう。
- スピーカーを増やして、後部席の近くに戦略的に配置します。 前と後ろのスピーカーの間に 30m 以上の距離がある場合は、 サウンドの到達時間を整合するためにディレイプロセッサーを 使ってください (音は 1msec あたり 30cm ほど進むので、30m 進むには 1 / 10 秒ほどかかります)。

スピーカーモードとフィードバックデストロイヤーはこれらの問題を補正する効果的な機能です。 これら 2 つの機能の詳細は 9 ページをご覧ください。

## リギング

SRM スピーカーは PA-A2 アイボルトキット (パーツ番号:0028272) を使用して個別に吊り下げできます。このインサートには M10 ねじの アイボルト  $(M10 \times 1.5 mm \times 37 mm)$  が適合します。



警告:このスピーカーを吊り下げときは、必ず専門の技術者 に作業を依頼してください。不適切な設置は機器の破損 や人体への障害の原因になる場合があります。建物や人体

への危険を避けるために、スピーカーは安定した場所にしっかりと固 定してください。



警告:このキャビネットはフライポイントを使って吊り下げた 時に安定するよう設計されています。スピーカーのハンドル を使って吊り下げないでください。

### リギングの設計

スピーカーを吊り下げる時は方向性を定義する必要があります。

- 1. スピーカーを構造物に吊り下げるために必要な安定性、衝撃、 振動などの負荷に耐えられるリギングの方法とハードウェア
- 2.スピーカーを支えるための設計要素と耐荷重

Mackie では、リギングを行う前に次の事項を実施することを推奨し ます。

- 1. 文書化…詳細な図面とパーツリストを含む設計の全体像を文書 化する。
- 2. 分析…設置する前に専門の技術者に設計を見てもらい承認を 得る。
- 3. 設置…専門の技術者に設置と点検を依頼する
- 4. 安全性…十分な安全対策とバックアップシステムを講じる

## 3 Fly Points [SRM550 / SRM650]

MP= マウンティングポイント

# リギングハードウェアとアクセサリー

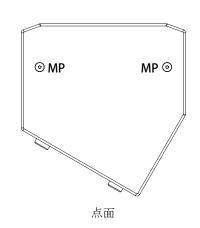
このスピーカーにはリギングに必要なハードウェアは付属しません。定 格荷重を満たした様々な他社製ハードウェアが販売されており、リギン グシステムの設計、設置を専門とする製造業者も数多く存在します。リ ギングに関わる作業は専門性を要するため訓練が必要です。リギング 作業にはその性質上、多くの危険が伴います。信頼性を確保するた めにも作業に精通した業者に作業をご依頼ください。

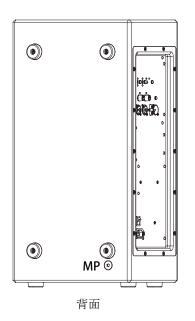
Mackie 純正のリギングアイテムやアクセサリーも多くの製品でご利用 いただけます。これらは設置作業を容易にする目的で設計されていま すが、設置状況やアレイの組み方は様々なので、特定の用途におけ る定格荷重や安全性を定義することはできません。

Mackie は全てのリギングシステムを扱っているわけではありません。 また、設計や製造、リギングの設置は行っていません。設置者の責 任において、適切なエンジニアリングを行い、構造物からスピーカー を支持するときの負荷に耐えられるリギングシステムをご用意ください。

### リギングに関する注意

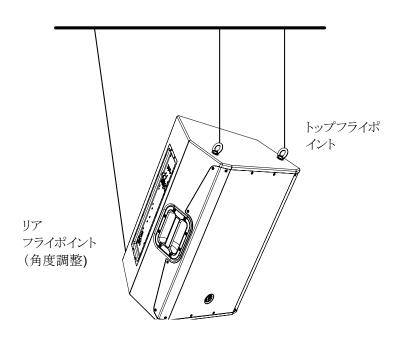
SRM スピーカーのマウンティングポイントはスピーカー本体とスピー カーに取り付けた外付けハードウェアのみの荷重に耐えるように設計さ れています。従って、スピーカーは別のスピーカーや荷重とは別の1 本ずつ個別に支持しなければなりません。SRM スピーカーをリギング するときは3つのリギングポイントを全て使用してください。

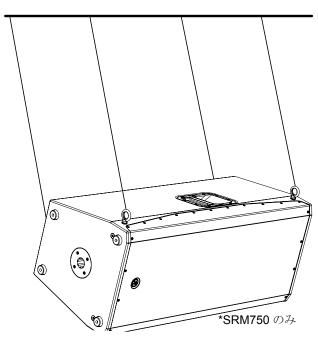




# リギングに関する大切なお知らせ

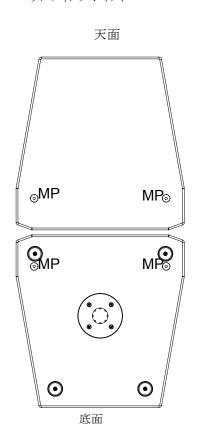
繰り返します。Mackie は全てのリギングシステムを扱っているわけではありません。また、設計や製造、リギングの設置は行っていません。設置者の責任において、適切なエンジニアリングを行い、構造物からスピーカーを支持するときの負荷に耐えられるリギングシステムをご用意ください。

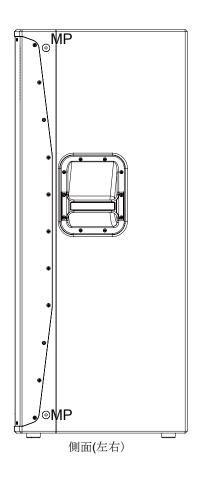


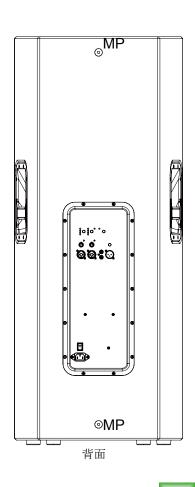


# 10 Fly Points [SRM750]

MP = マウンティングポイント







# 付録A:サービスについて

SRM スピーカーに問題が発生した場合は、下記の「トラブルシュー ティング」を参照して問題点をご確認ください。下記の内容に沿っ て状況を確認しても問題が解決しない場合、または明らかに製品 が故障している場合は、ただちに使用を中止してこの製品をお求め の販売代理店まで修理をご依頼ください。

# トラブルシューティング

### 電源が入らない

- Mackie お気に入りの質問。AC コードを接続してありますか? コ ンセントから電力が供給されていますか? (テスターやランプなどで 確かめてください。)
- 次にお気に入りの質問。Power スイッチを on にしましたか? on になっていなければスイッチを入れてください。
- Running Man のロゴは点灯していますか? 点灯していない場合 は、コンセントが電力を供給しているか確認してください。点灯して いる場合は「音が出ない」を参照してください。
- 内部のヒューズが飛んでいるかもしれません。この製品の内部には お客様が交換する部品はありません。この製品をお求めの販売代 理店まで、修理を依頼してください。

### 音が出ない

- ゲインノブを絞りきっていないですか? システム中すべてのボリ ュームコントロールが適切に調整されているか確認してください。 レベルメーターを見て信号が入力されているかを確認してくださ
- シグナルソースは機能していますか? ケーブルが良い状態であ ること、両端でしっかり接続されていることを確認してください。 ミキシングコンソールやプリアンプなどの出力ボリューム (ゲイ ン) コントロールが、このスピーカーの入力をドライブするのに十 分なだけ上がっていることを確認してください。
- ミキサーがミュートされていないか、プロセッサーでループができ ていないかを確認してください。このような状況だったら、問題の スイッチを外す前に必ず音量 / ゲインを下げてください。
- シャットダウンされていませんか? **SRM**スピーカーの背後に少 なくとも20cm程度の空間を空けてください。

### 低域特性が良くない

- ミキサーとスピーカーの接続で極性を確認してください。ケーブル の一方の端で陽極と陰極が反転しているせいで、スピーカーが逆 相になっているかもしれません。
- 低域にパワーがないときはコンセントから十分な電力が供給され ていない場合があります。詳細は11ページのAC電源をご覧くだ さい。

### 音が良くない

- 音量が大きくて歪んでいますか? 信号経路で過大入力となって いる原因がないかを確認してください。システム中すべてのボリュ ームコントロールが適切に調整されているか確認してください。
- 入力コネクターがジャックに最後までしっかり挿し込まれていま すか? すべてしっかり接続されていることを確認してください。

### ノイズが出る

- ゲインノブの位置はどうなっていますか? マイクを接続している ときはMic、ラインレベルの信号に対してはLineに設定してくださ い。使用していない入力は全てoffにします。
- スピーカーに対するすべての接続で問題がないことを確認してく
- 信号ケーブルを電源コードや電源トランスなど電磁干渉を発生す るものの近くに設置しないでください。
- スピーカーと同じ電源回路に、照明用ディマーやSCRベースの機 器を接続していませんか? AC電源フィルターを使うか、スピー カーを別のAC電源回路に接続してください。

#### ハム

- インプットジャックに接続したケーブルを抜いてください。これでノイズ が消えた場合は、SRMスピーカーに問題があるのではなくグラウ ンドループかもしれません。以下のトラブルシューティングを試してみ てください。
- ノイズを最大限除去するため、システム全体をバランスで接続してく
- 可能な場合は音響機器の電源コードをすべてコモングラウンドを共 用するコンセントに接続してください。コンセントとコモングラウンドの 距離は可能な限り短くしてください。

# 付録B コネクター

### バランスXLRインプットコネクター

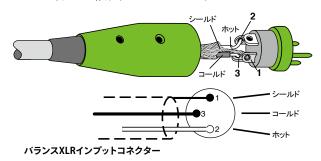
SRMスピーカーには2つのXLR / TRS / TS コンボインプット (メス) を装備しています。ケーブルは、下図のように、AES (Audio Engineering Society) の規格に従って配線してください。

### バランスXLRインプット コネクター

1番ピン=シールドまたはグランド

2番ピン=陽極(+またはホット)

3番ピン=陰極(-またはコールド)



### バランスXLRアウトプットコネクター

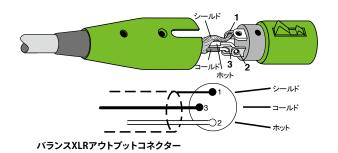
SRMスピーカーにはTHRUとラベリングされたXLRアウトプット(オス) が装備されています。ケーブルの配線はAES (Audio Engineering Society) の規格に従って配線してください。

#### バランスXLRアウトプット コネクター

1番ピン=シールドまたはグランド

2番ピン=陽極(+またはホット)

3番ピン=陰極-またはコールド)



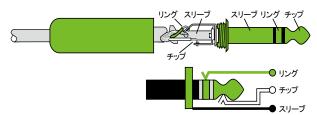
SRM スピーカーは THRU アウトを介してデイジーチェーン接続できます。シグナルソース (ミキサーからの出力など)をインプットジャックに接続して、THRU アウトを次のスピーカーのインプットにパッチします。スピーカーをさらに追加するときはこの手順を繰り返します。詳しくは 6ページの接続例をご覧ください。

### バランス1/4インチTRSフォーンコネクター

TRSはチップ・リング・スリーブの略で、ステレオ1/4インチのプラグに3 つの接点があります。TRSケーブルを使用してSRMスピーカーのチャンネルインプット1,2にダイレクト接続できます。ケーブルは、下図のように、AES (Audio Engineering Society) の規格に従って配線してください。

#### バランス1/4" TRS コネクター

スリーブ=シールドまたはグランド チップ=陽極 (+またはホット) リング=陰極 (-またはコールド)



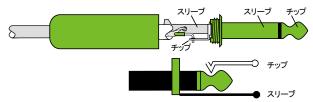
バランス1/4インチTRSフォーンインプットコネクター

### アンバランス1/4インチTSフォーンコネクター

TSはチップ-スリーブの略で、モノラルの1/4インチプラグに2つの接 点があります。TSケーブルを使用してSRMスピーカーのチャンネルイ ンプット1、2にダイレクト接続できます。ケーブルは、下図のように、AES (Audio Engineering Society) の規格に従って配線してください。

### アンバランス1/4" TRS コネクター

スリーブ=シールドまたはグランド チップ=陽極 (+またはホット)



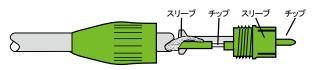
アンバランス1/4インチTSフォーンインプットコネクター

#### RCAプラグとジャック

RCAタイプのプラグ (PHONOプラグとも呼ばれます) とジャック はよくホームオーディオや映像機器に使われます。RCAプラグは アンバランスです。信号はセンターピンに、グラウンドやシールドは エッジのガスケットに接続します。ケーブルは、下図のように、AES (Audio Engineering Society) の規格に従って配線してください。

#### アンバランスRCA コネクター

スリーブ=シールドまたはグランド チップ=陽極 (+またはホット)



アンバランスRCAコネクター

# 付録C:技術情報

# SRMスピーカー仕様

周波数特性 (-3 dB)	55 Hz-17 kHz [SRM550] 50 Hz-17 kHz [SRM650]
周波数特性 (-10 dB)	42 Hz-20 kHz [SRM750]
	49 Hz-20 kHz [SRM550]
	39 Hz-20 kHz [SRM650]
	37 Hz-20kHz [SRM750]
最大ピーク音圧レベル	132 dB [SRM550]
	133 dB [SRM650]
	135 dB [SRM750]
クロスオーバーポイント	3 kHz
指向角度[水平×垂直]	90° x 50°

## 高域セクション

ボイスコイル直径	1インチ
ホーン直径	1.4 インチ
ダイヤフラム材質	チタニウム
マグネット材質	フェアライト

### 低域セクション

ウーファー直径	12インチ [SRM550]
	15 インチ [SRM650]
	2×15インチ [SRM750]
ボイスコイル直径	2.6 インチ [SRM550]
	3 インチ [SRM650]
	2.5 インチ [SRM750]
ダイヤフラム材質	ペーパー
マグネット材質	フェアライト

### パワーアンプ

システムパワーアンプ		
定格出力	800W(平均)	
	1600W(ピーク)	
低域用パワーアンプ		
定格出力	400W(平均)	
	800W(ピーク)	
定格全高調波歪	1% 未満	
冷却	対流式	
設計	D級	
高域用パワーアンプ		
定格出力	400W(平均)	
	800W(ピーク)	
定格全高調波歪	1% 未満	

対流式

D 級

### インプット / アウトプット

チャンネル 1 Mic-Line 1/4" TRS, Wide-Z <sup>™</sup>	バランス(8k $\Omega$ ) アンバランス(1M $\Omega$ )
チャンネル 2 Mic-Line 1/4" TRS, Wide-Z <sup>™</sup>	バランス(8k $\Omega$ ) アンバランス(1M $\Omega$ )
RCA	アンバランス(25k $\Omega$ )
Thru [Ch 1/Mix スイッチが押し込まれてい スイッチが押し込まれているとき(Mix)に	

### 電源入力

US 着脱式電源コード	90 – 130 VAC, 50-60 Hz,200W
EU 着脱式電源コード	190 – 240 VAC, 50-60 Hz,200W
AC アダプター	IEC 準拠 3ピン 250VAC / モデル
電源タイプ	スイッチモード

### 保護機能

0)
_

### 構造

<b>15mm</b> ポプラ材
黒
両側面
パウダーコート 18 ゲージスチール
M10 x 1.5 x 37 mm(3カ所)[SRM550 / SRM650]
M10 x 1.5 x 37 mm(10力所)[SRM750]
60°[SRM550 / SRM650]

冷却

設計

# 付録C:技術情報

#### 寸法・重量

<u> </u>	
SRM550:	
高さ	585mm
幅	360mm
奥行き	377mm
重量	16.8kg
CDMCEO	
SRM650	
高さ	677mm
幅	445mm
奥行き	441mm
重量	21kg
SRM750	
高さ	1080mm
幅	445mm
奥行き	458mm
重量	40.4kg

### マウント

フロアマウント、ポールマウント、**M10** マウンティングポイントを使用してフライングが可能です。

 $M10 \times 1.5 \times 37$ mmショルダーアイボルトを使用してください。

詳細は 14~15ページをご覧ください。

#### オプション

SRM550 カバー	P / N 2036809-22
SRM650 カバー	P / N 2036809-23
SRM750 カバー	P / N 2036809-26
SPM200 スピーカーポールマウント	P / N 2035170-01
PA-A2 ショルダーアイボルトキット	
(3 x M10 x 1.5 x 37 mm)	P / N 0028272

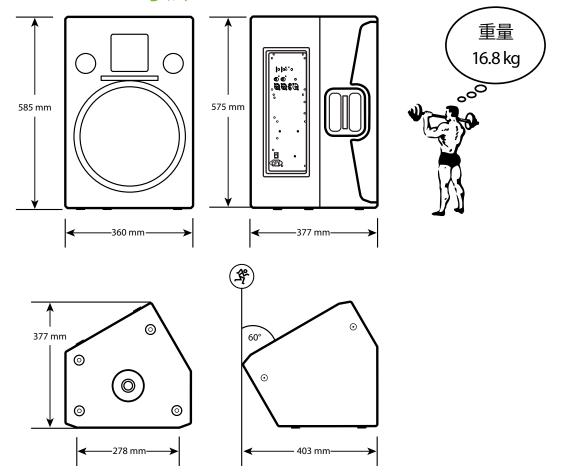
LOUD Technologies社は、常に新しい素材、部品、製造方法を取り入れて製品を改善するよう努めているため、製品の外観および仕様は予告なく変更することがあります。

「ランニングマン」、「Running Man」はLOUD Technologies 社の登録商標です。他の商品名または会社名は各社の商標ま たは登録商標です。

# ご不明な点は...

- www.mackie.com/jp にアクセスしてサポートの項目をご覧ください。
- support\_mackie@otk.co.jp までメールをお寄せください。
- テクニカルサポートセンターにお電話ください。 日本語04-2944-3811 (月~金曜、9am~6pm) 英語1-800-898-3211 (月~金曜、営業時間 PST)

# SRM550 スピーカー寸法



## SRM550 スピーカー周波数特性

### PA スピーカーモード - =

このモードはフルレンジですが、特に声の成分が多く存在する中域を際立たせます。一般的な PA の場合は、まずこのモードを選択するとよいでしょう。

#### 

このモードは不要な低域を取り除き、中高域にきらびやかさを加えたサウンドを提供します。このシンガーソングライターのステージ用セットアップには最適です。

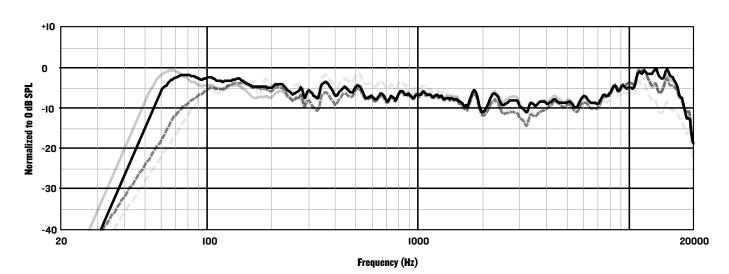
#### DJ スピーカーモード – –

このモードは低域と高域を強調され中域に谷間ができるドンシャリ系 のサウンドを提供します。音楽再生に適したモードです。

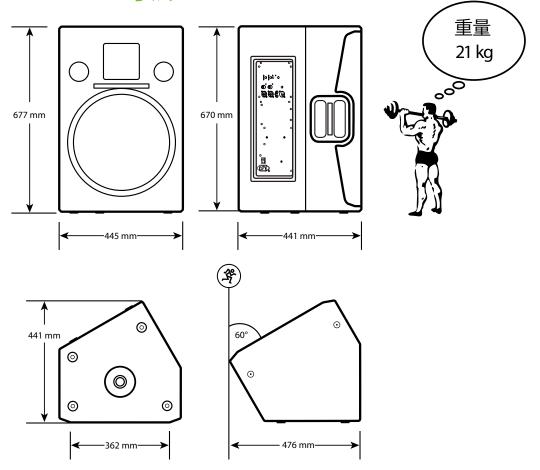
### Monitor スピーカーモード - - - - - - - - - - - - -

このモードは低域のロールオフ、および 2kHz 周辺をおさえることでフィードバッックを発生させることなく最大レベルで再生できます。モニター用途に最適です。

### SRM550 スピーカー周波数特性



# SRM650 スピーカー寸法



### SRM650 スピーカー周波数特性

### PA スピーカーモード - -

このモードはフルレンジですが、特に声の成分が多く存在する中域を際立たせます。一般的な PA の場合は、まずこのモードを選択するとよいでしょう。

### 

このモードは不要な低域を取り除き、中高域にきらびやかさを加えたサウンドを提供します。このシンガーソングライターのステージ用セットアップには最適です。

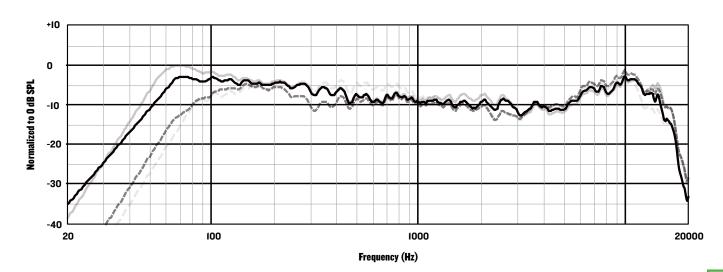
#### DJ スピーカーモード – —

このモードは低域と高域を強調され中域に谷間ができるドンシャリ系 のサウンドを提供します。音楽再生に適したモードです。

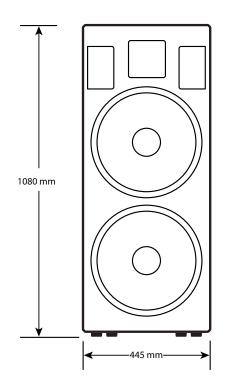
### Monitor スピーカーモード - - - - - - - - - - - - -

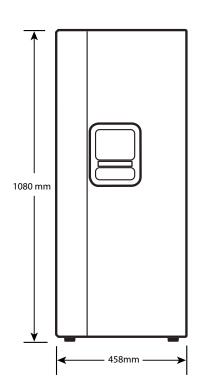
このモードは低域のロールオフ、および 2kHz 周辺をおさえることでフィードバッックを発生させることなく最大レベルで再生できます。モニター用途に最適です。

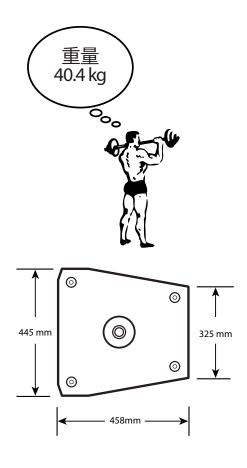
### SRM650 スピーカー周波数特性



# SRM750 スピーカー寸法







### SRM750 スピーカー周波数特性

### PA スピーカーモード - -

このモードはフルレンジですが、特に声の成分が多く存在する中域を際立たせます。一般的な PA の場合は、まずこのモードを選択するとよいでしょう。

#### 

このモードは低域をなだらかにロールオフします。ステージ上で最低限必要な低域を維持しながらも豊かな中高域を再生します。全帯域にわたって優れた周波数レスポンスを実現します。このプラグ・アンド・プレイモードは、ステージでのサイドフィルモニター、またはサブウーファーと組み合わせてメインスピーカーとして SRM750 を使用するときに最適なモードです。

### DJ スピーカーモード - -

このモードは低域と高域を強調され中域に谷間ができるドンシャリ系 のサウンドを提供します。音楽再生に適したモードです。

#### SPEECH スピーカーモード -- - - - - - - - -

このモードは不要な低域ノイズを排除しながらボイスに重要な成分を含む中高域をブーストします。このプラグ・アンド・プレイモードは大きな会場でスピーチをはっきりと聞かせたい場合に効果的なモードです。

### SRM750 スピーカー周波数特性

